

利賀ダム建設事業の概要 (令和8年4月現在)

■洪水調節

庄川の洪水氾濫から沿川地域を守り、また、急流河川特有の流水の強大なエネルギーから堤防の安全性を確保するため、利賀ダム地点において毎秒500立方メートルの洪水調節を行い、下流全川にわたり洪水の流量の低減を図ります。



H16.10.台風23号 庄川洪水観測史上最高水位を記録 2,840名に避難勧告

■流水の正常な機能の維持

庄川の安定した流量は、地域の生活や産業を支える用水をはじめ、水質の保全、良好な動植物の生息・生育環境に必要です。利賀ダムでは、庄川の流水の正常な機能の維持を図るための補給を行います。



鮎釣り

■工業用水

砺波工業団地で使用する工業用水として、富山県企業局が1日最大8,640立方メートルの取水が可能となるよう、利賀ダムにおいて新たな水需要量の開発を行います。



砺波工業団地



■事業の経過

- 平成元年 5月 実施計画調査に着手、利賀ダム調査事務所開設
- 平成5年 4月 建設事業に着手、利賀ダム工事事務所に改称
- 平成6年11月 基本計画告示(総事業費 約900億円、予定工期 平成20年度)
- 平成10年10月 工事用道路兼一般国道471号利賀バイパス着手
- 平成12年 3月 「工事用道路の損失補償に関する覚書」調印式
- 平成14年12月 「利賀ダム建設事業に伴う損失補償に関する確認書」調印式
- 平成15年 6月 「利賀ダム建設事業に伴う工事用道路等(口山地区)の損失補償に関する確認書」調印式
- 平成15年 9月 水没家屋全戸(3戸)生活再建地へ移転完了
- 平成19年 7月 庄川水系河川整備基本方針策定
- 平成20年 7月 庄川水系河川整備計画策定(全5回の流域懇談会開催)事業評価監視委員会に報告(事業継続)
- 平成21年 3月 基本計画変更告示(総事業費 約1,150億円、予定工期 平成34年度)
- 平成28年 8月 ダム事業の検証に関する対応方針決定(継続)
- 平成30年10月 工事用道路部分完成・一般国道471号バイパス部分開通(南砺市利賀村栃原～長崎間)
- 令和2年 8月 基本計画変更告示(総事業費 約1,640億円、予定工期 令和13年度)
- 令和6年 3月 利賀ダム本体工事着手

■事業の進捗 約67%(令和7年度末現在 事業費ベース)

利賀ダムの諸元

注：湛水イメージはNWL時



日本有数の暮らしやすい地域

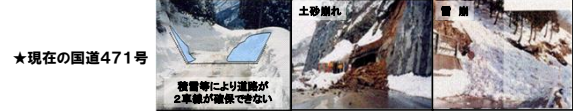
庄川流域のある富山県は、持ち家比率や平均住宅面積などが日本一であるなど充実した住居環境を持つ地域です。また、商工業が発達する都市と美しく豊かな自然や伝統文化が色濃く残る農山漁村が近接し、子育てしやすく、健康・長寿でも知られる生活環境を有する日本有数の暮らしやすい地域です。

さらに発展する地域

庄川流域では、高岡銅器などの伝統産業の集積を土台として、豊かな水や電力を背景に立地したもののづくり産業が集積しています。また、北陸自動車道、能越自動車道、東海北陸自動車道の整備に加え、平成26年度には北陸新幹線の開業など、広域交通ネットワークの整備により、さらなる発展が期待される地域です。



利賀ダムは、流域の豊かな暮らしや活発な産業活動を守り、さらに発展する地域づくりに寄与します



地域振興に寄与 人命救助に寄与

現在の一般国道471号は、急勾配、急カーブが連続するうえ幅員も狭く、降雨や降雪による通行規制が頻発する道路です。ダム完成後のバイパス供用によって、過疎化が進む南砺市利賀村の地域振興や主要産業の一つである観光の発展に大きく寄与することが期待されます。

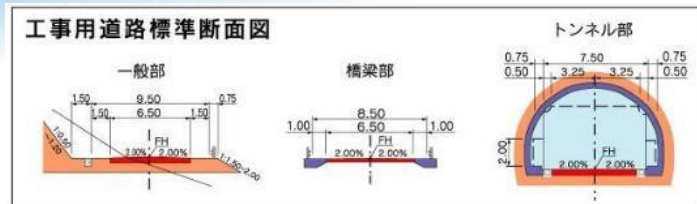
利賀バイパスは、全区間約9.2kmのうち66%がトンネルであるため気象の変化に関係なく、安全に走行が可能となります。また、救急医療施設までの到達時間が短縮され、人命救助にも大きく寄与します。



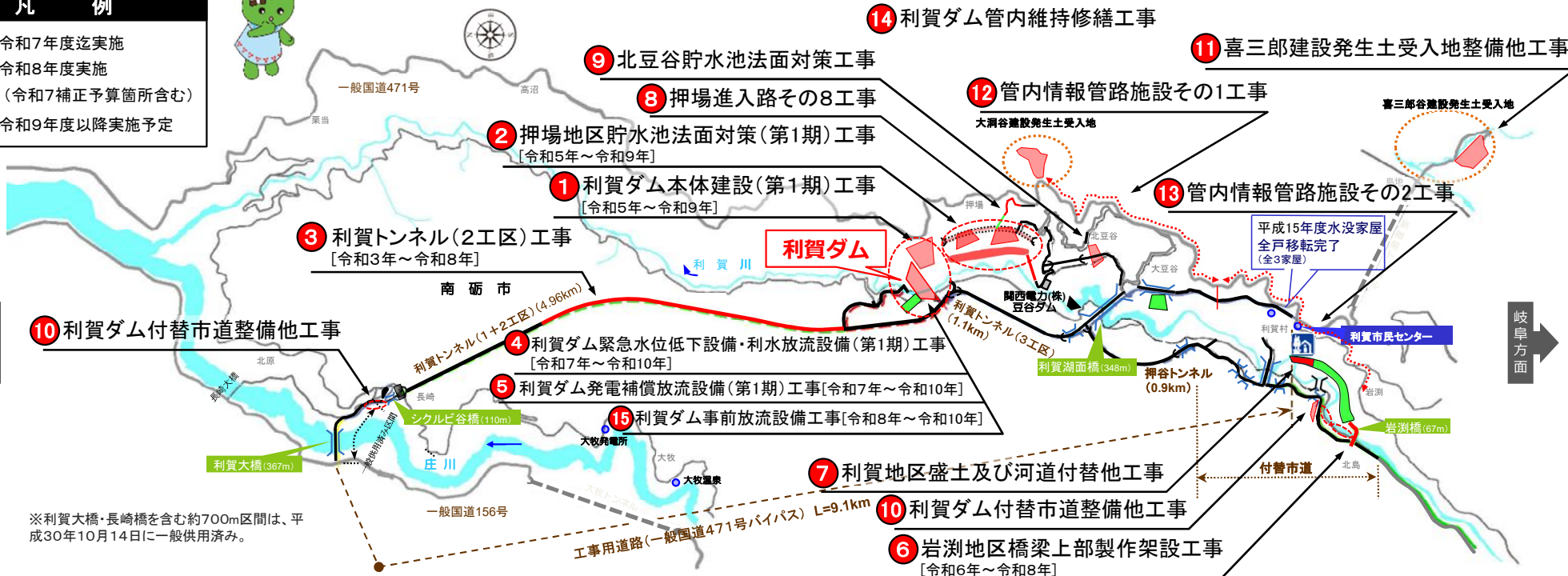
令和8年度

工事概要

予算概要	
令和7年度 (R6補正含む)	令和8年度 (R7補正含む)
124.2億円 (144.3億円)	124.9億円 (152.6億円)



- 凡例**
- 令和7年度迄実施
 - 令和8年度実施
(令和7補正予算箇所含む)
 - 令和9年度以降実施予定



※利賀大橋・長崎橋を含む約700m区間は、平成30年10月14日に一般供用済み。

